

幅では、上腕の前後運動において脇面(腋窩)のいちじるしいのびをみた。また衣服を作成する場合に基準となる胸まわり線においては、上腕の前方上下運動時に、背面に大きなのびをみるが前面や側面においては後方へひきこまれている。全体の胸まわり寸法においてはあまり変化をみない。胴まわりにおいては、上腕を上挙することにより後脇面の部分が少々伸び、その分が前面で縮んでいる。

このような上半身の偏位による皮膚面の複雑な移動状態を知り、衣服製作時の運動量の参考にしたいものである。

## C-67 身体の運動と被服構成(第6報) —動作に伴う上半身の偏位について—

名古屋市立女短大 高橋 春子  
東海学園女短大 西条 セツ  
瑞穂短大 ○鈴木 昭子

1. 衣服に必要な要素の一つとして、機能性の問題があるが、それには着用する人体の体型に適應し、種々の動作により生じる体型の変化を知ることが大切である。前報に引きつづき、上半身における皮膚面の偏位について調べたので報告する。

2. 上半身の皮膚面の偏位は、ストロボ写真撮影法(東芝 SS-4-A 型装置、閃光頻度 30 サイクル)によって行った。皮膚面には白色・黒色のドーランで点・線を描き、各種動作により、その点・線がどのように移動するかを調べた。

3. 背肩幅においては、上腕を上挙することにおいては狭くなり、上腕の下垂状態前面動作では広がる。胸